

# 小学校社会科において、根拠を基にして自分の考えを表現できる児童の育成

－児童の思考をつなぐ教師の支援と思考ツールを活用した話合いの工夫を通して－

前橋市立大利根小学校 春山 萌

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編の「社会科改訂の趣旨及び要点」では、「社会的な見方・考え方をういた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。」と示されている。また、前橋市各教科等指導の努力点（社会科）では、「位置や空間的な広がり、時期や推移、相互関係や政治・法・経済との関連などを視点に、比較・分類したり総合したり関連付けたりしながら交流することで、理解や考えを深めている」姿が目指す児童の姿の一つとして示されている。これらのことから、様々な資料から得られた情報を適切に選択・判断し、その情報を根拠として社会科の見方・考え方を働かせながら自分の考えを交流することに社会科の指導上の課題があると考えられる。

本学級の児童は、一問一答式の問いについては、すぐに答えを導き出し、積極的に取り組める一方で、調べた事実から根拠を見いだして自分の考えをもったり、交流場面で自他の考えの共通点や相違点から自分の考えを再構築したりすることに課題がある。国、前橋市、本学級の課題から、根拠を基にして自分の考えをもち、友達の考えと比較しながら自分の考えを再構築することの必要性がうかがえる。

根拠を基にして自分の考えを表現するためには、単元の課題を追究していく場面において、社会的事象同士の関連性を児童が視覚的につかむことができるように、児童の思考をつなぐ教師の支援を行うことが必要である。また、話合い活動の場面において、根拠を基にして、自分の考えを表現できるようにするために、自分の考えと根拠を分けて可視化できる思考ツールを使用し、自他の考えを交流する中で、自分の考えを再構築することも必要であると考えられる。

以上のことから、児童の思考をつなぐ教師の支援や、思考ツールを活用した話合いの工夫を行うことで、小学校社会科において、根拠を基にして自分の考えを表現できる児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

根拠を基にして自分の考えを表現できる児童を育成するために、小学校社会科において児童の思考をつなぐ教師の支援と思考ツールを活用した話合いの工夫を取り入れたことが有効であることを、実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

小学校社会科学習指導において、以下二つの手立てを講じることで、根拠を基にして自分の考えを表現できる児童を育成することができるであろう。

## 1 児童の思考をつなぐ教師の支援【手立て1】

児童の思考をつなぐ教師の支援として、児童がいくつかの事実を関連付けて捉えられるように、資料から読み取った事実同士の関連性を児童の発言から引き出す意図的な発問や板書を行う。

## 2 思考ツールを活用した話合いの工夫【手立て2】

根拠を基に自分の考えを表現するために、思考ツールを活用して自他の考えの根拠の共通点から自分の考えを再構築する話合いの工夫を行う。

# IV 実践内容

本研究では、小学校第6学年（児童数29名）の社会科「明治の国づくりを進めた人々」において授業実践を行った。

## 1 手立て1【児童の思考をつなぐ教師の支援】

### (1) 実践の概要

児童は大久保利通が行った改革のうち地租改正、殖産興業、徴兵令についてそれぞれ分担して調べた。調べた内容について児童から出された言葉を使い、キーワードで板書した（図1）。児童は、すべての改革を調べていないため、教師が、その都度、資料をテレビに提示しながら、調べた事実の確認を行った。その際、事実同士の関連付けることができるよう、意図的な問い返しを行い、矢印で事実同士を結んだり、児童の考えを色チョークで書き足したりして改革同士のつながりを児童が意識できるようにした。

### (2) 結果と考察

学級全体で情報を整理する場面において、児童が捉えた事実に対して問い返しを行った（表1下線部）。さらに、二つの事実を関連付ける言葉を児童が発言した際には、色チョークで「戦い？」「今までの小さな船とはちがう」などと板書した（図1-①）。こうすることで、事実同士の関連に気付いた児童の考えを可視化したことによって全員で共有することができた。また、改革同士の関連性を意識できるように、教師が「地租改正で安定して手に入るようになったお金は、何に使ったのかな。」と全体に問うと、A児からは、殖産興業について読み取った事実「大きな船」と「現金」を関連付ける発言があった。また、B児は、徴兵令について

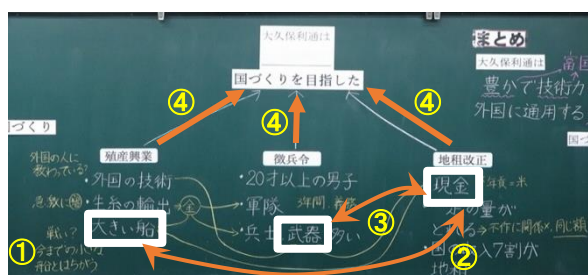


図1 児童の思考をつなぐ板書

表1 児童の思考をつないでいく教師の支援

教師	地租改正で安定して手に入るようになったお金は何に使ったのかな。【意図的な問い返し】
A児	殖産興業で出てきた大きな船を造るのに使ったのかな。【殖産興業と地租改正の関連付け】
教師	地租改正の現金と、殖産興業の大きな船は関係があるということかな。 【事実を線で結ぶ。図1-②】
B児	手に入れたお金で、最新の武器を作ったと思うな。【地租改正と徴兵令の関連付け】
教師	現金と武器は関係があるということかな。【事実を線で結ぶ。図1-③】
A児	3つの改革は互いにつながってる！大久保の目指した国づくりにはどれも必要そうだ！



表2 グループでの話し合いの様子

G 児：徴兵令で武器や軍隊をつくったということから、外国に負けない強い国づくりを目指したと思います。

E 児：殖産興業で生糸をたくさん輸出して、大きな船を造っていることが分かったから、お金をたくさん持っている豊かな国を目指したと思います。

G 児：共通点を見ると、「武力」と「お金」がキーワードになりそうだな。

F 児：強い国もいいんだけど、お金がないと、武器や軍隊を作ることもしないと思うんだ。

G 児：確かにそうだな。ただ強いだけではなくて、お金も必要そうだな。

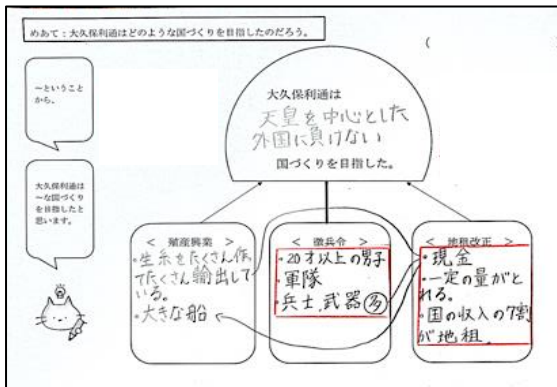


図3 話し合い前のG児の記述

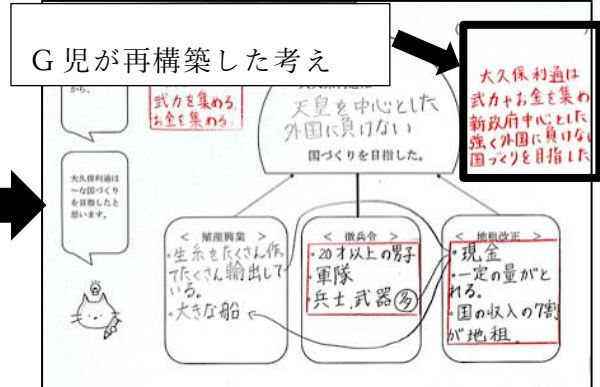


図4 話し合い後のG児の記述

## V 研究のまとめ

### 1 研究の成果

- 大久保利通が行った三つの改革が、どれも重要で大久保利通の国づくりに影響していることに気付かせるために、児童に問い返しながら板書で可視化した結果、児童は、三つの改革が関連付いていることに気付くことができた。そして、その三つの改革から調べた事実を根拠として自分の考えをもつことができた。
- 話し合い活動ではクラゲチャートを活用し、根拠を基に交流を行い、根拠の共通点に着目して大久保らの目指す国を考えることができた。このことから、思考ツールの特徴を生かして根拠を可視化したり、根拠に着目した話し合いの視点を与えたりすることが、根拠を基にして自分の考えを表現することに有効であったと考える。

### 2 今後の課題

- 板書で児童の思考をつなぐ際、教師と児童間のみではなく、児童同士の交流を通して社会的事象の関連性を捉えさせていきたい。
- 話し合いの際、共通点に着目させ話し合ったが、さらに多様な意見交換を行えるようにするために相違点に着目させて交流させていくことも必要であると考える。

ねらい：大久保利通らが進めた国づくりについて話合うことを通して、どのような国を目指していたかについて根拠を基に表現することをできるようにする。

主な学習活動	指導の工夫	子どもの姿・反応例
<p>○学習問題とこれまでの学習内容を振り返る。</p> <p>めあてを知り、予想を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントでアジアの国々が欧米諸国に次々と植民地にされていく様子を見せ、日本が置かれている危機的な状況を捉え、めあてについて考える意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このままでは日本も植民地にされてしまうかもしれない。どうしよう。</li> <li>・外国に負けない国づくりを目指したのかな。</li> </ul>
<p>めあて 大久保利通はどのような国づくりを目指したのだろう。</p>		
<p>○大久保らが行った三つの改革の内容について一つを選び、資料を使って調べる。㉗(殖産興業・徴兵令・地租改正)</p> <p>○三つの改革の内容を確認する。㉘</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習の前に、改革の名前から内容を推測できるように、改革名を黒板に貼り付けた。その際、配付したクラゲチャートと黒板の板書が同じ形式になるように板書をする。</li> <li>・3人グループとなり、それぞれ一つの改革について調べられるようにする。</li> <li>・気付いたことや改革の内容についてクラゲチャートの足の部分に書き込めるように促す。</li> </ul> <p>○改革同士のつながりを意識できる板書となるように、問い返しをしながら児童から出された考えを色チョークで足したり、事実同士を結んだりする。</p> <p>○調べていなかった改革についても内容を理解できるよう、クラゲチャートの足の部分に板書の内容を書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徴兵令：兵を集めたり、最新の武器を揃えたりしたんだな。</li> <li>・殖産興業：生糸を輸出してお金を集めたんだな。</li> <li>・地租改正：現金を集めたんだな。地租は国の収入の大部分を占めているな。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div> <p>T：手に入れたお金って何に使ったのかな。  「武器を買ったり、作ったりするのに必要だ。」  「大きい船を造るのにも使ったと思うな。」  「大久保達の国づくりには、どの改革も必要なんだ！」</p>



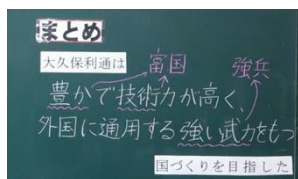
○三つの政策を関連付け、大久保はどのような国づくりをしたのかを個人で考え、その後話し合いをする。

⑦ 個人の考え

⑧ グループ活動後に再構築した個人の考え



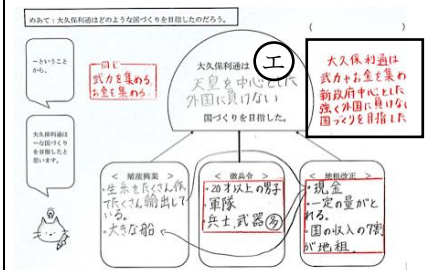
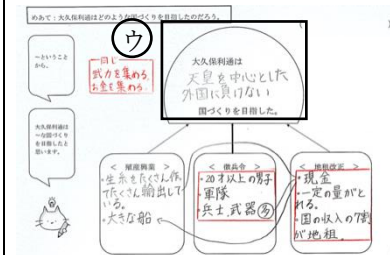
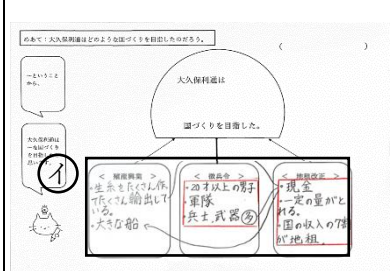
○学習のまとめをする。



○自分の学習について振り返りをし、次時への意欲をもつ。

- ・自分の考えを可視化し、整理して考えられるように、クラゲチャートを使う。
- ・どの根拠から考えをもったのかをわかるようにするため、自分の考えを説明する際は、使った資料を指差しながら発表できるようにする。
- ・考えを深められるよう、互いが使用した根拠の共通点に赤線を引き、それを基にして考えを一つにまとめていくように助言する。

- ・全員で学習内容の確認をするため、板書を確認しながら全体でまとめをする。
- ・大久保の目指した国づくりは、「富国強兵」というスローガンで表されることを確認する。
- ・授業の初めに触れた植民地について、日本は植民地とらなかったことを伝え、大久保の改革によって、日本は安定したのだろうかという問題意識をもたせて次時につなげる。



<参考文献>

北俊夫(2018). 「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり 明治図書  
 澤井洋介(2015). 澤井洋介の社会科の授業デザイン 東洋館出版社  
 田村学・黒上晴夫(2013). 考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業 小学館  
 柳沼孝一(2014). 授業の工夫がひと目でわかる! 小学校社会科板書モデル 明治図書